



令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

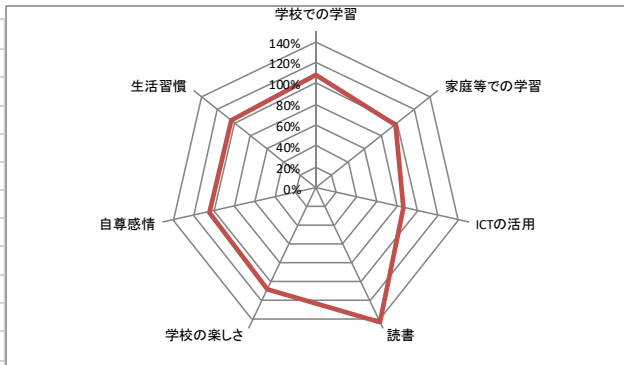
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、自分の考えをまとめることや、人物像や物語の全体像を文章を読むことで具体的に想像することに突出している。	上回っている
算数	全体的に福岡県、全国平均を上回っている。変化と数量に関する問題は上回っているものの、記述による説明を行う問題に対して課題が見られる。	上回っている
理科	全体的な領域に対する回答は福岡県、全国平均を上回っている。実験器具の名称や短くまとめて実験結果を書くことなどに課題が見られる。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・学校に行くことを肯定している児童が多く、学校内の生活も楽しいと答えた児童が非常に多い。
- ・読書に対して肯定的ではあるが、実際の読書時間は非常に短いことが課題となっている。
- ・総合的な学習の時間の課題を持つことや、家庭学習での課題を持つことなど、自分が学びたいものに対しての課題の持ち方に対して、各教科での課題を通し、さらに育てる必要がある。
- ・ICTの活用に関しては、過渡期の児童であるため、今年度を含め活用機会を増やしていく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・文章中の漢字表記及び、文章全体の構成、書き表し方について、すべての教科で現在の基盤を大切に、さらなる向上を目指す。
- ・ICTの活用を含め、学習に対する充実を図るほか、さらなる基礎・基本や課題のある内容に対して定着を図るための取り組みを行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学校、学年通信、保健だよりや保護者会などを通して生活習慣に対する啓発と指導を行い、家庭との連携を図る。
- ・中学校との連携を図るとともに、課題に対する取り組み方などの共通理解を図り指導していく。